

全国公募美術展・MAF展

【江別】市内野幌住吉町の造形作家、小西純二さん(64)が、全国公募美術展「第44回MAF展」で最高賞のMAF賞を受けた。作品はステンレスを素材にしたオブジェ「対話する形」で、技術面と作品の精度が評価された。海外で長く活動した小西さんは2011年に帰国したが、その後に脳梗塞を患い、リハビリを重ねて今秋から活動を再開したばかり。「大きな賞をもらえたのは光栄」と喜んでいる。(津村和宏)



全国公募美術展「MAF展」の最高賞を受けた小西純二さんと、受賞作の「対話する形」

技と精度高評価 小西さん最高賞

一般財団法人「映像と芸術の振興財団(東京)が、東京都美術館を中心に1981年から毎年開いている。今年には120人から絵画や彫刻、映像など幅広い作品

の応募があり最終審査で11個人・団体(企業)の入賞が決まった。道内からの入賞は小西さんだけ。
小西さんは江別高卒業後、職業訓練大学校(現・職業能力開発総合大学校)で金属加工を学んだ。その後、オーストラリアやコロンビア、チリなどで創作活動に取り組み、現地では作品展や工科大学生の指導にも携わった。11年に帰国し、翌年に小樽にアトリエを開いたが、14年2月に脳梗塞を患い、江別に戻った。体

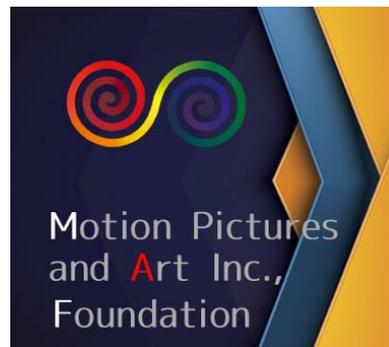
江別の造形作家 脳梗塞乗り越え 「可能性追求したい」

調はほぼ回復し、今年9月には長野市で講演するなど活動を再び始め、MAF展にも出品した。
受賞作「対話する形」は97年の作品。大きさの違う、緩やかな曲線の立体二つで構成し、向き合って対話するような形になっている。11月10日に東京で授賞式が行われ、賞状などを受けた。小西さんは「金属はフレキシブルで、いろいろな形にできる面白さがある。これからも可能性を追求したい」と話している。

一般財団法人 映像と芸術の振興財団

Motion Pictures and Art Inc., Foundation

MAF



芸術による社会貢献と改革に私達は取り組みます

フェスタスクランブル

私達が主催する《フェスタスクランブル》は、造形芸術作品や映像芸術作品だけでなく、ダンスや特殊メイクなど様々な分野のアートイベントなど人と芸術の祭典です。

◇サンクチュアリアート Sanctuary Art

サンクチュアリアートは、芸術による復興運動とより良い社会創出を意図しています。

その象徴として、福島を中心とする原子力災害被災地域にアートエリア=サンクチュアリアートエリアの造成をします。

MAF 展

MAF 展は、公募美術展として1981年より東京都美術館を中心に毎年開催して参りました。

このたび、より社会貢献事業に繋がる展覧会としてのコンクール展に改変してサンクチュアリアート構想の実現に向けて新たな一歩を踏み出します。

サンクチュアリアートは、芸術作品を展覧会場の中に止めるべきではないという趣旨に基づき、芸術作品を公共空間に設置してよりコンセプチュアルなアートエリアを造り、アートムーブメントを創成するというものです。

私達は社会的価値観をより良く作り変える強いエネルギーを持った芸術作品と芸術家を支援すると共に、コンクール部門における優れた作品をサンクチュアリアートとして福島を中心とする被災地に恒久展示して“サンクチュアリアートエリア”を展開します。